

創作かかし大会の最優秀賞 老人クラブ連合会の作品



最優秀賞に輝いたかかしを制作した老人クラブ連合会の役員

米どころ・妹背牛の秋を彩る「もせうし創作かかし大会」の審査が10月5日、収穫感謝祭が開催されていた町内中心部で行われ、最優秀賞に「天才バカボンのパパ」が選ばれました。



審査風景

創作かかし大会

米どころをPRする目的で開催され、今年で16回目。今年は町内の農業や商工業などから11団体が参加し、イベントの来場者による一般投票と、審査員6人の投票で最優秀賞1点と優秀賞3点を決めました。

優秀賞

- ・「リラックマ出没注意!!」
JA北いぶき妹背牛支所
- ・「もせうし1等まいちゃん」
JA北いぶき青年部妹背牛支部
- ・「おぼんちゅうさぎ」
妹背牛商工会女性部

制作したのは、妹背牛町老人クラブ連合会の三役6人。メンバー同士が気軽に集まれる機会をつくり、地域のイベントを盛り上げようと、初めて参加しました。

役員たちはかかしに使用する廃材を持ち寄り、1カ月前から作業を開始。木材に緩衝材を巻いて胴体を膨らませ、浮き玉で作った顔の凹凸に筆で目や鼻を描き、豊かな表情に仕上げました。

制作期間が秋の交通安全運動と重なったことから、かかしに蛍光ジャンパーを着せて、飲酒運転撲滅を呼びかける看板と交通安全の旗を持たせました。

同連合会の中易猛会長は「かかしのサイズの調整に苦労しました。入賞すると思っていなかったのですね、うれしいです」と話しています。

となりの外国人

担当：グエン・カン・リン

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

2024年9月20日より、ジャマイカ出身のパーマー・キシャジュディンさん(45)が妹背牛町でALT(外国語指導助手)として働いています。

ノーザン・カリビアン大学で中等教育の学士号を取得し、約22年間教えています。「教師という職業は、私の家系に受け継がれているものです。学ぶこと、そして人の学びを手伝うことが大好きなので、天職のようなものです」とキシャさん。

2021年にALTとして働くための資格を取得。そして、環境を変えたいという思いから北海道に引っ越しました。言葉の壁はありますが、キシャさんは簡単な言葉や身ぶり手ぶり、時には

翻訳アプリを使って日本語を理解しています。「ほかの先生と同じように、生徒たちも親切で友好的。英語で話しかけてくれます」と、笑顔を見せます。

これから、キシャさんは、この地域や人々にもっと慣れ親しみ、コミュニティーの一員であることを感じたいと思っています。仕事の目標は、生徒が今のレベルから次のレベルへと進み、より良い英語を話せるようになることです。



新しいALTのキシャさん(右)とインタビューのリンさん